

「スノーモンキーと小布施・善光寺」

2016年1月13～14日実施 JGA 第二支部・本部合同研修レポート

1月13日(水)～14日(木)、外国人に圧倒的な人気を誇る「スノーモンキー」地獄谷野猿公苑と北信の小京都「小布施」、そして長野の古刹「善光寺」を修める研修が実施された。

受講者はJGA正会員21名。それに今回の研修を企画した第二支部運営委員3名と本部運営委員長、さらに会長・副会長を加え、計27名が参加した。研修は、初日は公共交通機関(電車・バス)で地獄谷を訪ね湯田中温泉で一泊、2日目はバスツアーによる小布施・善光寺の2部構成。

第一部の研修では、まず矢木野さか恵本部運営委員長と丹羽やよい第二支部運営委員よりコースの概要と長野駅周辺のお役立ち情報、団体乗車券の取扱注意点などを紹介。

続いて、長野電鉄「スノーモンキー」車内では矢木野委員長より北信五岳をはじめとする車窓案内、神野清司第二支部運営委員より日本三大車窓の愉しみを披露するうち湯田中駅に到着。宿の「星川館」に荷物を預け、山ノ内町観光連盟池田円氏の案内で路線バスにて地獄谷へ。



バスを降りて、公苑までの道すがらガイドとしてのチェックポイント(荷物預け、雪道用品レンタル店など)も押さえながら公苑へ、いよいよ温泉に浸かる猿を目の当たりにし気分は最高潮に。

宿に戻り、温泉で疲れを癒した後の会食では宴会芸(トラトラ、炭坑節など)も修めました。

第二部は貸切観光バスで出発、一路「栗と北斎と花の街」小布施へ。北斎館では企画展「北斎と富嶽—北斎の富嶽三十六景と広重の富士三十六景」と祭屋台天井肉筆画を池田憲治学芸員のご案内のもと見学。続いて小布施まち歩きガイドの小林暢雄氏(一茶研究家でもある)の案内による町内巡り。北斎を小布施に導いた高井鴻山を記念した高井鴻山記念館や枳一市村酒造場・松葉屋本店といった酒蔵のある栗の小径を中心に歩き、オープンガーデンの施設が百を超えると聞くそのもてなしの心に触れるなかで、年に一度の「安市」で賑わう北信のお伊勢さん皇大神宮を経て、本日のお楽しみ「一茶御膳」(栗ごはん)の待つ北斎亭へ。小布施最後は北斎の天井画「八方睨み鳳凰図」と福島正廟、蛙合戦の池で有名な岩松院で締めくくり。



則靈
運営
聞き
寺

ベテランガイド矢木野運営委員長や布目晃子第二支部委員のモデルガイディングを



ながらバスは長野市の「善光

へ。境内では3班に分かれ、ボランティアガイド「梵鐘の会」の森清子氏、小河原寿子氏、山越恵子氏の引率のもと、丁度今回の研修と全く同じコースを辿るオーストラリアからの一行とすれ違う中、仁王門、

仲見世、本堂(内陣、お戒壇めぐりなど)を見て解散となった。

スノーモンキーや小布施、善光寺は初めてという参加者が多かったが、研修を終えた頃には「参加してよかった。自信をもってこの地域を案内できる」という声が聞かれ、講師が集めた参考資料、各運営委員による手作りの手配などが実を結んだ研修であった。